

パーキンソン病について No5



話題の新薬 コムクロシャンプー-0.05%

外用頭部乾癬治療剤

パーキンソン病の薬物治療について

パーキンソン病には、さまざまな薬があります。それぞれに特徴があり、患者さんの症状や活動度に応じ、医師が処方します。パーキンソン病は脳内のドーパミンが不足して起こるため、それを補う L-ドーパやドーパミンアゴニストが治療薬の中心になります

① L-ドーパ含製剤

レボドーパ単剤とレボドーパとドーパ脱炭酸酵素阻害薬 DCI（：カルビドーパ、ベンセラジド）の配合剤の2種類があります。

レボドーパ単剤を内服すると、ドーパ脱炭酸酵素によりドーパミンに代謝され、多くは脳内へ移行できずに失活してしまいます。ドーパ脱炭酸酵素阻害薬は、末梢でレボドーパからドーパミンへ代謝されるのを抑制し、脳内へのレボドーパの移行を高めるため、レボドーパの必要量が75～80%削減され25～20%になります。また消化器系の副作用など末梢性副作用が軽減されるため、レボドーパとドーパ脱炭酸酵素阻害薬との配合剤の使用が勧められています。周術期など、経口での服用ができない場合には、レボドーパ単剤の注射剤が用いられています。

●レボドーパ単剤

ドーパール錠 200mg

ドーパストン静注 25・50mg

●レボドーパ単剤＋カルビドーパ

メネシット配合錠 100・250

ネオドーパストン配合錠 L100

【後発品】カルコーパ配合錠 L100

【後発品】ドーパコール配合錠 L100

●レボドーパ単剤＋ベンセラジド

イーシー・ドーパール配合錠

マドパー配合錠

次号に続く

コムクロシャンプーは、マルホで開発された頭部の尋常性乾癬治療剤である。本剤の有効成分はストロンゲストクラスの副腎皮質ステロイドである。通常、1日1回、乾燥した頭部に患部を中心に適量を塗布し、約15分後に水又は湯で泡立て、洗い流す。本剤はシャンプー様外用液剤であり、本剤の開発により既存のステロイド外用剤にはない用法である短時間接触療法が可能となった。また、シャンプーという日常生活に比較的取り入れやすい剤形である点、寝具などにつきにくい点などから患者さんの利便性向上も期待できると考えられる。

薬価 1本 125ml＝3525円

副作用情報 ジフルカン

ファイザーから販売されている深在性真菌症治療剤の「ジフルカン[®]セル・静注液」は、直近3年の副作用報告であって、因果関係が否定できない副作用として、「薬剤性過敏症症候群関連症例」が1例報告された。そのため重大な副作用の項に「薬剤性過敏症症候群」が追記された。

認知症サポーター 1200万人に

認知症の人やその家族を手助けする「認知症サポーター」について、政府は2020年度末までに今の約880万人から1200万人に増やす方針を固めた。25年度には高齢者の5人に1人が認知症になる可能性があり、地域で支えられる人材の育成を加速させる。サポーター制度は05年、認知症への偏見をなくすために始まった。養成講座を60～90分受ければ認定される。正しい知識を身につけて、できる範囲での手助けを無償で行う。政府は今後、金融機関や交通機関など認知症の人に接する機会が多い会社で働く人を中心に広めていく考えだ。

